

2020.8.9 年間第 19 主日

本当にあなたは神の子です

マタイ福音書 14 章 22-33

(人々が、パンを食べて満腹した後、) イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」 イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。 イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

説教

食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。 マタイ 14:21

「女と子供を別にして」とあるので「5000 人の給食」は現代風にいえば 5000 世帯にパンと魚を配ったということです。この 5000 世帯の人々はイエスに救いを求めて集まってきた群衆でした。イエスは彼らのなかにいる病人を癒しました。それでも解散しないので食料（パンと魚）を配ったと福音書に記録されています。同じようなことが新型コロナウイルス感染症対策と

して日本でも行われました。全国民に対して一律 10 万円を給付するという特別定額給付金です。似ているなと気づいたのは世帯主に対して給付金が世帯全員分給付された点です。一人世帯なら 10 万円ですが、2 人世帯なら 20 万円、4 人世帯なら 40 万円です。「5000 人の給食」でも食料は 5000 人分ではなく 5000 世帯分でした。

きょうの福音はこの給食のエピソードに続くものです。イエスは弟子たちを強して舟で向こう岸に向かわせ、その間に満腹した群衆を解散させ一人で祈りにいきました。弟子たちの乗る舟は湖が荒れ不安な夜を過ごしています。そんな夜明け前、イエスが湖の上を歩いて弟子たちの乗る舟に近づいてきました。弟子たちは恐れおののきますがイエスが乗船するや否や湖は鎮まりゲネサレトに到着したというはなしです。

「人と神の出会い」の出来事を二回に分ける考える方があります。一回目は神が確かにそこにいるということを体験することです。5000 世帯の人たちが病人の癒しとパンと魚の給食を体験したことがそれに当たります。救いをもとめてイエスのもとに集まってきた群衆は神がいることを信じていました。そして神の救い（病気癒し、食料配布）を体験しました。そして二回目は弟子たちが『「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。』ことにあたります。福音の記述でいえば一回目の出会いは「ありがたい神」で二回目の出会いは「おそれおののく神」となります。10 万円の特別定額給付金は 5000 人の給食を現代日本の政治が実行したと仮定してみます。人数は拡大されていて 5000 万世帯にパン（10 万円）が配られました。いろいろな感想はあるかもしれませんが「ありがたい」お金です。でもこれが救いになっているかと問えば、おおきなクエッション??? がつきます。

イエスの給食も特別定額給付金と同じようにパンと魚を配るだけで救済され

るわけではありません。はっきりいってしまえば「パン」だけでは足りないのです。モーセに率いられて圧政に苦しんだエジプトから脱出したユダヤの民は腹がへった、のどがカラカラだと文句をいい、水と食料（天から降るマナ）を神から与えられました。しかし彼らは毎日おなじもマナは飽きた、べつの食べ物が欲しいと苦情をいい、救われたと思いませんでした。

湖上を歩くイエスを見た弟子たちがおそれながらも「あなたは神の子です」と告白しました。この二回目の神との出会いによって救いへの道が開いたとすれば、同じようにわたしたち一人ひとりがおそれながらも「神我と共にいます」ということに目が開く、開眼することによって救いへの道が開きます。そして誰にもましてイエスこそがこの道の先達者であり、完成者です。わたしたちはイエス・キリストのみ名によって祈ることで救いを得ることができるのです。
